

第 37 回

NHK 杯全国高校放送コンテスト

神奈川県大会 予選

日時 平成 2 年 6 月 1 0 日 (日) AM 9 : 0 0 ~
場所 県立川崎工業高等学校
主催 神奈川県高等学校視聴覚教育研究会
後援 神奈川県教育委員会
NHK 横浜放送局
有隣堂
朝日新聞横浜支局
神奈川県新聞社
主管 神奈川県高等学校視聴覚教育研究会校内放送委員会

本選 日時 平成 2 年 6 月 2 4 日 (日) AM 9 : 0 0 ~
場所 県立大師高等学校

目 次

ページ

- * 日 程 ・ 開 会 式 次 第・・・ 1
- * 会 場 案 内 図・・・ 2
- * 役 員 一 覧・・・ 4
- * 委 員 校 ・ 役 員 校 業 務 分 担・・・ 5
- * 実 施 要 領・・・ 6
- * 審 査 員 一 覧・・・ 12
- * 出 場 者 及 び エ ン ト リ ー 一 覧
 審査の観点
 - アナウンス部門・・・・・・・・・・ 14
 - 朗読部門・・・・・・・・・・ 16
 - ラジオ番組部門 課題・・・・・・・・ 18
 - ラジオ番組部門 自由・・・・・・・・ 19
 - テレビ番組部門 課題・自由／研究発表部門・・・・ 20
- * 出 場 校 及 び
 参加部門別本数一覧・・・ 21

日 程

9 : 0 0 ~ 9 : 3 0	開場
9 : 3 0 ~ 1 0 : 0 0	開会式
1 0 : 0 0	審査開始
1 2 : 0 0	午前の部終了
昼食時間	
1 3 : 0 0	午後の部開始
1 6 : 0 0	審査終了
1 7 : 0 0	全員退校

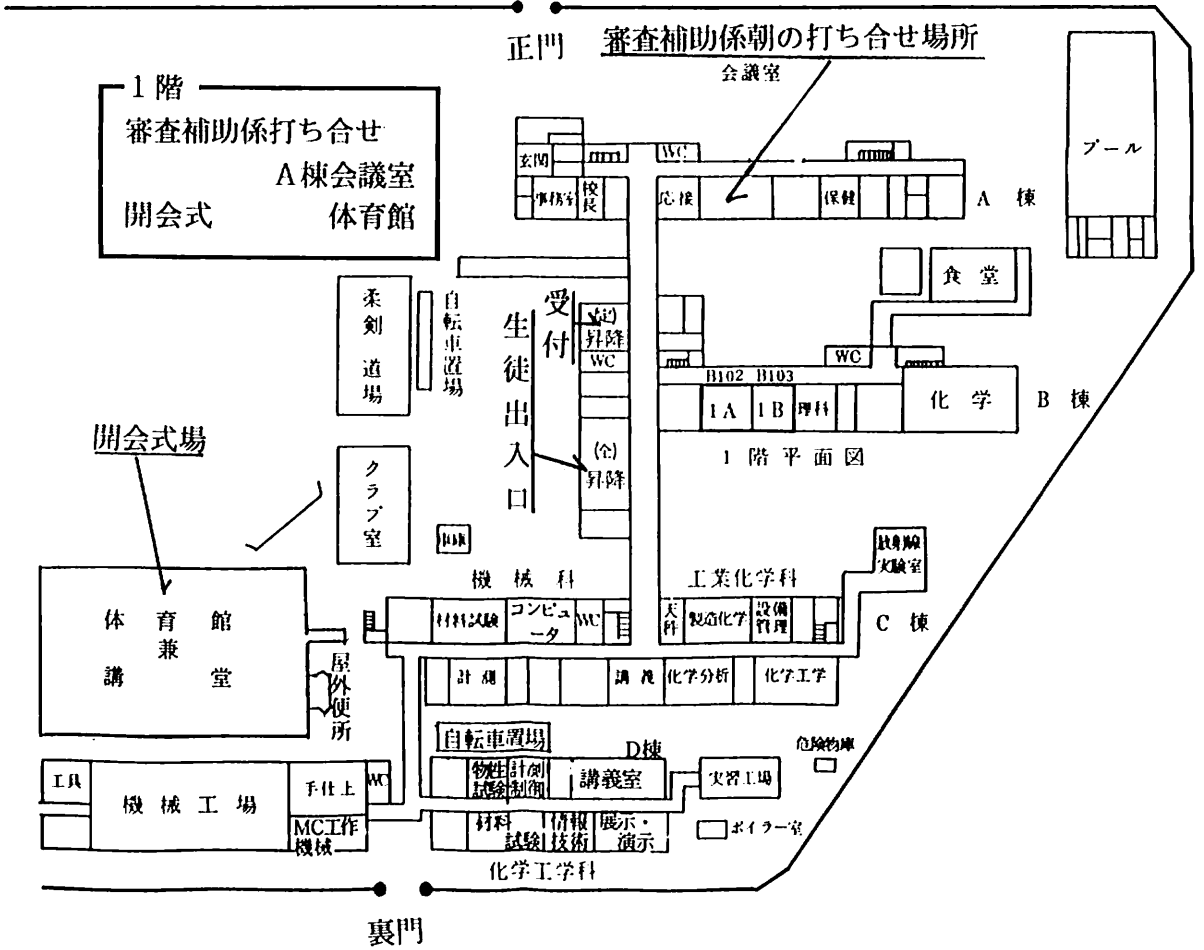
開会式次第

開式 9時30分

- 1、あいさつ 大会顧問 水谷 大二郎
- 2、第36回大会総合優勝、準優勝杯返還
 - ・ N H K 杯（総合優勝杯）返還 県立座間高等学校
 - ・ 有隣堂杯（総合準優勝杯）返還 相模女子大学高等部
- 3、第37回大会実施上の注意 総合審査副委員長 須川 光雄
- 4、運営上の注意 大会実行委員長 岩崎 章

- ※ 委員校、役員校の生徒は朝、指示に従って会場準備にあたること。
- ※ 審査員（顧問）は9時30分より審査打ち合わせを行います。
- ※ 午前の部終了、午後の部開始の時刻は、審査会場によって異なります。特にアナウンス部門、朗読部門の出場者は注意してください。

会場案内図



立ち入りが禁止されている場所には入らないこと

審査会場配置

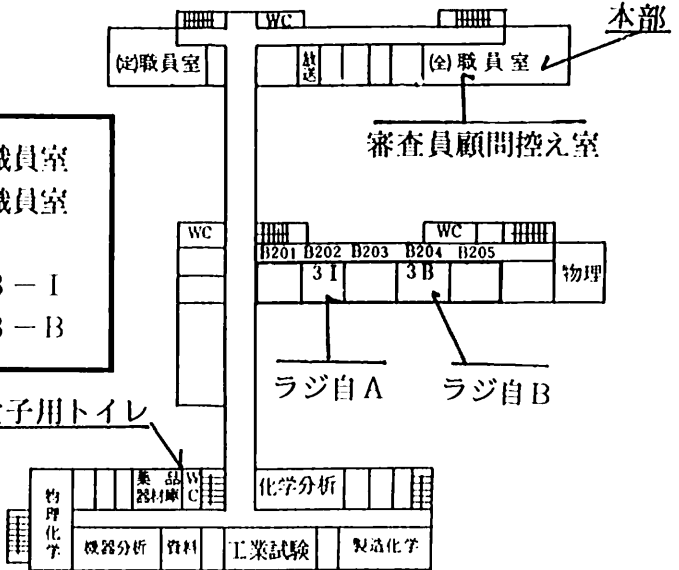
アナウンス A	B棟 4階 視聴覚室
アナウンス B	B棟 4階 1-F
朗読 A	B棟 4階 3-D
朗読 B	B棟 4階 3-F
ラジオ課題 A	B棟 3階 1-C
ラジオ課題 B	B棟 3階 2-B
ラジオ自由 A	B棟 2階 3-I
ラジオ自由 B	B棟 2階 3-B

運営

本部	A棟 2階 職員室
審査員控え室	職員室
審査補助係打合せ	A棟 1階 会議室
集計室	C棟 4階
	電気計測
開会式	体育館

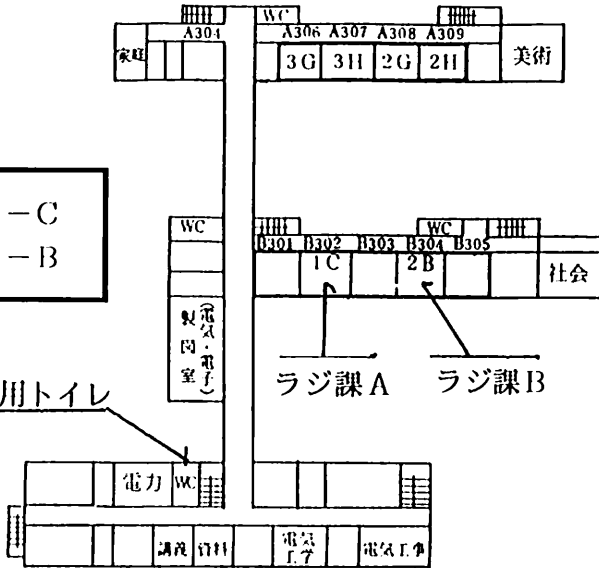
2階平面図

2階		
本部	A棟	職員室
審査員・顧問控え室	A棟	職員室
B棟 (真ん中の棟)		
ラジ自A	B棟	3-I
ラジ自B	B棟	3-B



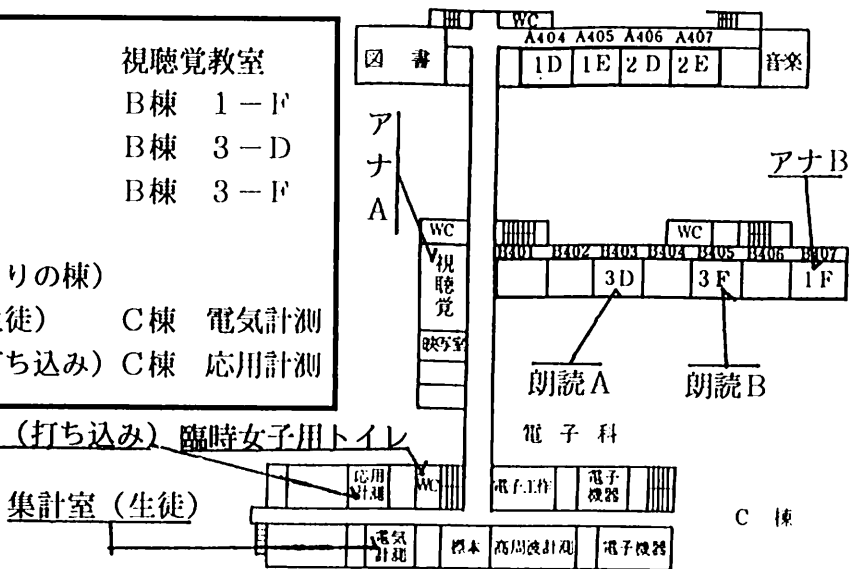
3階平面図

3階		
ラジ課A	B棟	1-C
ラジ課B	B棟	2-B



4階平面図

4階		
アナA	視聴覚教室	
アナB	B棟	1-F
朗A	B棟	3-D
朗B	B棟	3-F
C棟 (裏門よりの棟)		
集計室 (生徒)	C棟	電気計測
集計室 (打ち込み)	C棟	応用計測



役 員 一 覧

- | | | | |
|---|------------|--------|---------------|
| 1 | 大会会長 | 藤原 當悟 | (聖ヨゼフ学園高等学校) |
| 2 | 大会副会長 | 丹羽 稔 | (県立川崎南高等学校) |
| | 大会副会長 | 越村 信作 | (横浜市立東高等学校) |
| | 大会副会長 | 矢島 暢夫 | (森村学園高等部) |
| 3 | 大会顧問 | 水谷 大二郎 | (法政大学第二高等学校) |
| 4 | 大会実行委員長 | 岩崎 章 | (県立新城高等学校) |
| 5 | 大会総合審査委員長 | 原田 正美 | (県立磯子高等学校) |
| 6 | 大会総合副審査委員長 | 須川 光雄 | (県立座間高等学校) |
| 7 | 大会実行委員 | | |
| | * 本部 | 小野瀬 倫也 | (川崎市立川崎高等学校) |
| | * 受付 | 渡辺 康英 | (県立茅ヶ崎西浜高等学校) |
| | * 審査補助 | 小林 正英 | (県立川崎工業高等学校) |
| | * 集計 | 加藤 孝夫 | (県立大師高等学校) |
| | * 会場設営 | 前田 一穂 | (県立逗葉高等学校) |
| | * 会計 | 加藤 孝夫 | (県立大師高等学校) |
| 8 | 大会実行委員補佐 | 藤田 吉雄 | (川崎市立商業高等学校) |

役員校・委員校 業務分担

— < 役員校 > —

- ・ 県立新城：岩崎 章 (副長) ・ 県立茅ヶ崎西浜：渡辺 康英(副長)
・ 県立逗葉：前田 一穂 (副長) ・ 県立川崎工業：小林 正英(副長)
・ 市立川崎：小野瀬 倫也(副) ・ 県立大師：加藤 孝夫(計)

— < 委員校 > —

◎川崎

- ・ 県立菅：平田 ますみ
・ カリタス女子：富田 眞

◎湘南

- ・ 県立平塚江南：杉浦 敏昭
・ 県立茅ヶ崎北陵：柴崎 啓二

◎横須賀、三浦、西湘

- ・ 県立西湘：山田 りえ

◎横浜

- ・ 県立釜利谷：横川 清和
・ 県立神奈川工業：木田 和男
・ 県立金井：金子 和明
・ 市立戸塚：片山 浩行

◎北相

- ・ 厚木北：早川 義則
・ 厚木西：久木田 淳子
・ 県立有馬：野垣 美紀

— < 業務分担 (人数) > —

◎本部 ・ 川崎工業 (4) ・ 市立川崎 (3)

◎受付 ・ 新城 (3) ・ 大師 (7) ・ 市立川崎 (3)

◎会場 ・ 川崎工業 (4)

◎集計 ・ アナ A 茅ヶ崎西浜 (4) ・ ラ課 A 茅ヶ崎北陵 (3)
・ アナ B 神奈川工業 (3) ・ ラ課 B 逗葉 (4)
・ 朗読 A 新城 (3) ・ ラ自 A 菅 (3)
・ 朗読 B 大師 (4) ・ ラ自 B 平塚江南 (3)

◎審査補助

・ アナ A カリタス (4) ・ ラ課 A 大師 (5)
・ アナ B 市立戸塚 (5) ・ ラ課 B 茅ヶ崎西浜 (5)
・ 朗読 A 釜利谷 (4) ・ ラ自 A 西湘 (5)
・ 朗読 B 金井 (4) ・ ラ自 B 有馬 (5)

実 施 要 領

1. 目的

現代に生きる高校生の豊かな人間性の育成と、未来への展望をもつ人間としての成長をめざし、高等学校の特色ある教育活動の中核となる校内放送活動の健全な育成と放送教育の推進をはかる。

2. ねらい

- (1) 美しく豊かな日本語を大切にする心情を育て、あわせて話す力、表現する力を高める。
- (2) 校内マスコミの送り手としての自覚と創造性を育てる。
- (3) 学園生活の中におけるおいを育て、心のふれあいの場をつくる。
- (4) 発展する社会に対し、放送の果たす役割を学ぶ。
- (5) 国際理解を深め、人間尊重の心を培う放送の働きを確める。

3. 主催・後援・主管

主催：神奈川県高等学校視聴覚教育研究会

後援：神奈川県教育委員会、NHK横浜放送局、有隣堂、朝日新聞横浜支局、神奈川新聞社

主管：神奈川県高等学校視聴覚教育研究会校内放送委員会

4. 日程・会場

<予選>平成2年6月10日(日) 県立川崎工業高等学校

- ・実施部門：アナウンス、朗読、ラジオ番組(課題・自由)
- ・受け付け：9:00～9:30
- ・開会式：9:30～10:00
- ・審査打合：9:30～10:00
- ・審査開始：10:00

*審査結果は後日、葉書で連絡する。電話問合わせは不可。

<本選>平成2年6月24日(日) 県立大師高等学校

- ・実施部門：全部門
- ・受け付け：9:00～9:30
- ・審査打合：9:30～10:00
- ・審査開始：10:00
- ・予選落選作品返却：12:00～13:00
- ・閉会式：16:00～17:00

5. 参加資格

平成2年6月現在、神奈川県高等学校視聴覚教育研究会加盟校に在学している生徒であること。

6. 部門・出場数・出場費

部門	出場数	出場費
研究発表	1本	2200円
アナウンス	2名	1800円
朗読	2名	1800円
ラジオ番組	課題・自由各1本	2200円
テレビ番組	課題・自由各1本	2200円

*アナウンスと朗読に同一人が出場してはならない。

7. 表彰

部門	教育長賞	高視研会長賞 及びトロフィー	上位賞
研究発表	1位	参加数による	参加数による
アナウンス・朗読	1位	1～6位	7～12位
ラジオ・テレビ	1位	1～4位	5～8位

*総合優勝：NHK横浜放送局長賞 及び同杯

*総合準優勝：有隣堂賞 及び同杯

8. 全国大会への推薦

入賞者および入賞作品を上位より順に全国大会要領により推薦する。

9. 審査基準

高校生として望ましいアナウンスメント、朗読、番組であること。別紙、「審査の観点」に基づき、審査を行なう。

10. 説明会・出場申し込み

平成2年5月19日(土) 14:30~17:00

県立川崎工業高等学校

*詳細は資料10、11を参照。

11. 注意事項

- ① 会場は土足厳禁。必ずスリッパまたは上履きを持参すること。
- ② 全部門を通じ、出場申し込みの変更は認めない。
- ③ 放送台本・テープは出場1名・1本ごとに封筒に入れ、必要事項を記入し、大会当日に受付に提出すること。テレビ番組・研究発表部門については、本選当日、受付に提出すること。
- ④ 出場順等は、当日配布されるプログラムで確認すること。
- ⑤ 役員校・委員校の係生徒の集合時刻は午前8時30分。

12. 研究発表部門 諸規定

内容	日常の校内放送活動の中から、放送にたずさわる喜びや問題解決の努力または技術的な創意工夫などを発表する。	
時間	7分00秒～8分00秒以内。	
人数	発表にかかわる登壇者は6名以内。	
機器	次の3種のみ。 35mmスライド映写機(おびスクリーン) カセットテープレコーダー OHP(おびスクリーン) ・上記を主催者が用意する。原則としてそれを使用すること。 ・上記3種について、自校のものを持ち込み使用することも認めるが、その場合は、出場カードにその旨、記載すること。 ・創作した機器等を提示する場合は、上記3種以外も可。	
論文	1200字以内。2部。全国様式規定1。	角3封筒に入れ、台本表紙と同様に記載する。
台本	2部。全国様式規定2および6。	

13. アナウンス部門・朗読部門 諸規定

	アナウンス部門	朗読部門
内容	<p>自校のニュースや解説など、高校生活を語る若者の声を内容とし、原稿は自作したものに限る。</p>	<p>次の5作品から1編を選び、自己の表現したい部分をきめて朗読する。作品の脚色は認めない。</p>
容	<p>1 「潮騒」 三島由紀夫 著 (新潮文庫) 2 「人とつき合う法」 河盛 好藤 著 (新潮文庫) 3 「塩狩峠」 三浦 綾子 著 (新潮文庫) 4 「かもめのジョナサン」 リチャード・バック著 (新潮文庫) 5 「日本永代蔵」 井原 西鶴 著 (指定なし)</p> <p>* () 内の出版社に限る。</p>	
時間	<p>1分10秒～1分30秒。 エントリー番号、校名、氏名を含む。</p>	<p>1分30秒～2分00秒。 エントリー番号、校名、氏名、作者名、作品名を含む。</p>
原稿	<p>10部。全国様式規定3に従う。 角3封筒に入れ、原稿表紙と同様に記載する。</p>	

14. ラジオ・テレビ番組部門 内容規定

	課題部門	自由部門
内容	<p>テーマ 「われら高校生」</p> <p>ラジオ・テレビの特性を生かして、テーマを表現する。高校生活に広く素材を求め、テーマの焦点化を工夫した独創的な作品であること。</p>	<p>高校生活や地域社会とのかかわりを考えた未来を見つめる作品であってほしい。高校生としての視点や独創的な取り組みを大切にしたい。</p>
容	<p>高校生の創作に限る。 また、他のコンクールなどに参加した作品の参加は認めない。</p>	

15. ラジオ・テレビ番組部門 諸規定

	時 間	スクリプト
ラ ジ オ 番 組	<p>① 6分30秒～7分00秒。</p> <p>② 使用するデッキの回転誤差がありうるため、6分45秒程度が望ましい。</p> <p>③ 録音はリーダーテープの直後から始め、最後に「制作は〇〇高等学校放送部(類会)でした」というクレジットコールを入れる。</p> <p>④ 審査ではテープを手回しし、リーダーテープの直後を見いだしてからデッキに入れ、ポーズの状態にする。</p> <p>⑤ 計時はポーズ解除の瞬間から、クレジットコールの最後までとする。クレジットコールの最後で再生は終え、その後どんな音が入っていても審査の対象とはしない。</p>	<p>① 8部。</p> <p>② 全国様式規定5および6に従って作成すること。</p> <p>③ スクリプトも審査対象である。</p>
テ レ ビ 番 組	<p>① 7分30秒～8分00秒。</p> <p>② 使用するデッキの回転誤差がありうるため、7分45秒程度が望ましい。</p> <p>③ 番組の前後に20秒ずつ全国様式規定7のテストパターンを録画する。テストパターン中央の「全高放」の文字は、自校の略称にかえてよい。下には「〇〇高等学校」と校名を入れる。</p> <p>④ 計時は番組本体についてのみ行なう。但し、コンピューターグラフィック等を用いた動きのあるテストパターンは作品と一部をみなし、計時の対象とする。フェーダーも使用しないこと。</p>	<p>① 8部。</p> <p>② 全国様式規定5および6に従って作成すること。</p> <p>③ スクリプトも審査対象である。</p>

★全部門において、要領・規定に違反した場合は、失格・減点となるので、十分に注意すること。

テープ・音声	諸 注 意
<p>①往復録音時間30～60分のカセットテープのA面を使用。B面は消去。</p> <p>②テープの種類は、BIAS:NORMAL、EQ:120μSで録音再生できるものなら、どのようなものでも可。</p> <p>③ドルビー等のノイズリダクション方式を使用しないこと。</p> <p>④審査はノーマルポジションでモノラル再生をして行なう。</p> <p>⑤全国様式規定4に従い必要事項を記載した紙を、カセット本体A面とケースに貼付すること。</p>	<p>①スクリプト、テープを角2の封筒に入れ、封筒の表にはスクリプト表紙と同様の記載をすること。</p>
<p>①VTRはVHS(標準モード)、β(IまたはII)、8mm(標準モード)を使用する。</p> <p>②ドルビー等ノイズリダクション方式を使用しないこと。</p> <p>③音声は1、2chをミックスし、ノーマル再生する。(ノーマルトラックのみをモノラル再生する。HiFi等は使用しない。)</p> <p>④全国様式規定4に従い必要事項を記載した紙を、カセット本体とケースに貼付すること。</p>	<p>①スクリプト、テープを角2の封筒に入れ、封筒の表にはスクリプト表紙と同様の記載をすること。</p> <p>②自校のVTR及び接続ケーブルを使って再生を行なう場合は、出場申込カードにその旨記入すること。</p> <p>③8mmビデオを使用した場合、機材・接続ケーブルは、各校で用意すること。</p> <p>④8mm、16mmフィルムを主体としたもの、テレビ放送局の再録を主体としたものは認めない。</p>

審 査 員 一 覧

◎印はチーフ。

大会当日での変更（移動）があります。

総合審査委員長 原田 正美 (県立磯子)
総合審査副委員長 須川 光雄 (県立座間)

アナウンス部門

[A 会場]

◎関野 亘 (県立瀬谷西)
多城 淳 (鶴見女子)
北川 修 (県立生田)
南雲 浩一 (県立川崎)
高橋 純代 (県立厚木)
市川 泰男 (縣市立金沢)
山中 英司 (県立鶴嶺)
前田 春美 (法政大学第二)

[B 会場]

◎中村 ますみ (県立横浜日野)
両毛 明史 (県立海老名)
吉田 三千雄 (県立元石川)
川口 修 (県立百合丘)
福井 幸雄 (県立麻溝台)
勝又 修 (県立川和)
澤江 正浩 (富士見丘)
桜井 英臣 (県立保土ヶ谷)
湯山 寿生 (県立山北)

朗 読 部 門

[A 会場]

◎森山 昌枝 (法政女子)
石川 岩夫 (県立相模大野)
平沢 治 (県立市ヶ尾)
鹿目 秀嘉 (県立川崎北)
松本 由美子 (県立逗子)
三部 ひろみ (県立新磯)
田辺 俊紀 (県立荏田)
後藤 栄士 (県立厚木東)
吉沢 裕史 (県立商工)
石橋 勝信 (武相)

[B 会場]

◎松本 聡 (県立鶴見)
海部 弘 (県立大和東)
西村 正広 (駿向の岡工業)
永田 麻美 (県立五領ヶ台)
秋元 (県立久里浜)
一井 恵 (駿小田原城内)
金子 昌代 (平和学園)
中山 薫 (県立横浜翠嵐)
渡部 忠昭 (成美学園女子)

ラジオ番組制作部門（課題）

[A 会場]

- ◎角田 亨 (相模女子大学等部)
 小澤 元 (駐大船工業技術)
 鈴木 潤一 (県立横須賀)
 石黒 進 (県立湘南)
 伊勢 隆夫 (県立氷取沢)
 久保 孝男 (県立鎌倉)
 犬塚 達 (県立茅ヶ崎)
 宍戸 (横浜国際女学院翠陵)
 佐藤 裕 (県立二宮)

[B 会場]

- ◎根岸 富男 (県立豊田)
 川端 照雄 (県立追浜)
 井浦 洋 (県立白山)
 鈴木 史人 (県立川崎南)
 市川 利恵 (県立寒川)
 正田 信子 (県立弥栄西)
 本田 紀子 (県立大和)
 山室 利夫 (麻帆学園湯野辺)
 栗谷 公二 (県立横浜立野)
 川上 英樹 (県立東金沢)

ラジオ番組制作部門（自由）

[A 会場]

- ◎山崎 里見 (横浜市立鶴見工業)
 野中 和哉 (県立藤沢西)
 中村 博明 (県立大沢)
 藤田 健 (県立港北)
 小泉 正幸 (県立柿生)
 三宅 八郎 (県立永谷)
 佐藤 到 (県立柏陽)
 鈴木 努 (横浜市立横須賀)
 渡辺 輝彦 (県立希望ヶ丘)

[B 会場]

- ◎白石 通成 (横浜市立南)
 本藤 伸弘 (県立新栄)
 山口 敦郎 (県立生田東)
 館野 豊 (県立六ツ川)
 伊藤 博 (県立旭)
 原田 実 (横浜市立高津)
 小杉 隆 (県立厚木商業)
 吉岡 健 (逗子開成)
 富田 勝己 (県立平安)

テレビ番組制作部門（課題）

および研究発表部門

- ◎大森 俊尚 (横浜市立南)
 古谷 勝 (日本大学藤沢)
 布施 光一 (県立津久井浜)
 竹内 克己 (県立清水ヶ丘)
 温井 健 (県立橋本)
 海野 範幸 (県立藤城北工業)
 横須賀 真 (県立多摩)
 今井 恒義 (県立藤沢商業)

テレビ番組制作部門（自由）

- ◎中丸 隆夫 (東海大学湘相模)
 長岡 豊 (向上)
 大庭 孝則 (県立相武台)
 佐々木 新 (県立藤沢北)
 伴 和幸 (県立都岡)
 東郷 高思 (県立瀬谷)
 古谷 泰三 (県立港南台)
 新井 健治 (県立津久井)
 根元 一幸 (県立岸根)

出場者及びエントリー一覧

アナウンス部門

A 会場

No	学校名	氏名	学年	No	学校名	氏名	学年
1	県立海老川	加賀智恵	2	34	県立釜利谷	松本恵美	3
2	県立寒川	伊藤洋英	3	35	県立生田	本水千代	1
3	県立磯保	新垣克樹	2	36	県立大田	篠林雅	1
4	県立保土ヶ谷	大熊明	2	37	県立大田	小結美	2
5	県立都岡	小川真樹	3	38	県立白山	小結保	1
6	県立旭	渡辺宏美	2	39	県立小田原	小結香	3
7	県立五領ヶ台	小宮山かおり	2	40	県立新磯	小田井	2
8	県立立派北陵	小成田彩乃	1	41	県立立派	小田美	2
9	県立立派	増田子恵	2	42	県立立派	今井果	2
10	県立立派	大輪淑恵	1	43	県立立派	野原	1
11	県立立派	山田裕	1	44	県立立派	中野	2
12	県立立派	渡辺陽子	2	45	県立立派	菊地	1
13	県立立派	西佳子	3	46	県立立派	高野	3
14	県立立派	真田樹和	1	47	県立立派	阿部	1
15	県立立派	桶原留以	2	48	県立立派	中上	2
16	県立立派	佐藤文枝	1	49	県立立派	古原	1
17	県立立派	古川興二	3	50	県立立派	安上	1
18	県立立派	高腰知恵	2	51	県立立派	石川	2
19	県立立派	小松澄史	1	52	県立立派	石川	2
20	県立立派	吉田香	3	53	県立立派	石川	3
21	県立立派	吉田香	1	54	県立立派	石川	1
22	県立立派	吉田香	2	55	県立立派	石川	3
23	県立立派	勝本雅子	3	56	県立立派	石川	3
24	県立立派	阿部恵	2	57	県立立派	石川	2
25	県立立派	石川万帆	1	58	県立立派	石川	2
26	県立立派	石川万帆	2	59	県立立派	石川	3
27	県立立派	石川純子	1	60	県立立派	石川	2
28	県立立派	木下純子	2	61	県立立派	石川	3
29	県立立派	藤山紀子	1	62	県立立派	石川	3
30	県立立派	藤山紀子	2	63	県立立派	石川	2
31	県立立派	藤山紀子	3	64	県立立派	石川	2
32	県立立派	藤山紀子	3	65	県立立派	石川	2
33	県立立派	藤山紀子	2	66	県立立派	石川	1

<アナウンス部門：審査の観点>

- 1) 取材・まとめ方
話の内容、構成やまとめ方はどうか。
- 2) 内容の把握
内容をよく把握したアナウンスをしているか。

アナウンス部門

B 会場

No	校名	氏名	学年	No	校名	氏名	学年
1	石川県立女子	畑智子	3	34	大和東	桑永恵子	2
2	石川県立女子	田間静香	2	35	大和立	鶴久幸晴	2
3	石川県立津久井	奥美穂	2	36	高津	天沼昭裕	1
4	石川県立津久井	奥美穂	2	37	高津	天沼幸夫	2
5	石川県立津久井	奥美穂	2	38	高津	天沼幸子	3
6	石川県立津久井	奥美穂	2	39	高津	天沼幸子	1
7	石川県立津久井	奥美穂	2	40	高津	天沼幸子	1
8	石川県立津久井	奥美穂	2	41	高津	天沼幸子	1
9	石川県立津久井	奥美穂	2	42	高津	天沼幸子	2
10	石川県立津久井	奥美穂	2	43	高津	天沼幸子	3
11	石川県立津久井	奥美穂	2	44	高津	天沼幸子	2
12	石川県立津久井	奥美穂	2	45	高津	天沼幸子	3
13	石川県立津久井	奥美穂	2	46	高津	天沼幸子	3
14	石川県立津久井	奥美穂	2	47	高津	天沼幸子	2
15	石川県立津久井	奥美穂	2	48	高津	天沼幸子	2
16	石川県立津久井	奥美穂	2	49	高津	天沼幸子	2
17	石川県立津久井	奥美穂	2	50	高津	天沼幸子	2
18	石川県立津久井	奥美穂	2	51	高津	天沼幸子	2
19	石川県立津久井	奥美穂	2	52	高津	天沼幸子	2
20	石川県立津久井	奥美穂	2	53	高津	天沼幸子	2
21	石川県立津久井	奥美穂	2	54	高津	天沼幸子	3
22	石川県立津久井	奥美穂	2	55	高津	天沼幸子	2
23	石川県立津久井	奥美穂	2	56	高津	天沼幸子	1
24	石川県立津久井	奥美穂	2	57	高津	天沼幸子	2
25	石川県立津久井	奥美穂	2	58	高津	天沼幸子	3
26	石川県立津久井	奥美穂	2	59	高津	天沼幸子	3
27	石川県立津久井	奥美穂	2	60	高津	天沼幸子	2
28	石川県立津久井	奥美穂	2	61	高津	天沼幸子	2
29	石川県立津久井	奥美穂	2	62	高津	天沼幸子	2
30	石川県立津久井	奥美穂	2	63	高津	天沼幸子	2
31	石川県立津久井	奥美穂	2	64	高津	天沼幸子	2
32	石川県立津久井	奥美穂	2	65	高津	天沼幸子	1

3) 話しかけ方

内容伝達の力、間の取り方など、アナウンスの仕方全般。

4) 基礎技術

発声・音量・イントネーション・アクセントなどかどうか。

5) 全体的な印象

1)～4)以外の点で感じられたことも含む。

朗読部門

1. 湖騒 2. 人とつき合う法 3. 嵐狩峠
4. かもめのジョナサン 5. 日本永代蔵

A 会場

No	校名	氏名	学年	No	校名	氏名	学年
1	県立百和	浅沼	2	37	県立生田	今竹	1
2	県立大石	野山	2	38	県立立川	滝林	3
3	県立元港	美島	2	39	県立立川	理貴	1
4	県立北原	沼松	3	40	県立立川	加奈子	2
5	県立小田	政清	1	41	県立立川	幸薫	2
6	県立西田	沼水	1	42	県立立川	晴とみ	1
7	県立生田	沼末	1	43	県立立川	敏之	1
8	県立馬丘	森野	2	44	県立立川	青子	1
9	県立有見	根高	3	45	県立立川	澤美	2
10	川崎第二	神田	3	46	県立立川	中田	3
11	法政大	木間	2	47	県立立川	寺島	1
12	県立厚木	井手	2	48	県立立川	矢野	3
13	県立瀬谷	池本	3	49	県立立川	岩崎	2
14	県立麻溝	河本	1	50	県立立川	松本	1
15	県立相模	齊藤	2	51	県立立川	榎本	2
16	県立大商	川島	1	52	県立立川	八木	2
17	県立金沢	川島	1	53	県立立川	久保	2
18	県立附風	恩田	2	54	県立立川	西出	2
19	県立新大	大川	2	55	県立立川	渡辺	2
20	県立和子	根川	2	56	県立立川	洲藤	2
21	県立大厚	林山	3	57	県立立川	森花	2
22	県立厚木	小遠	1	58	県立立川	川永	3
23	県立リクス	河原	2	59	県立立川	向井	2
24	相模女子	山原	3	60	県立立川	北村	2
25	県立茅ヶ	原	2	61	県立立川	五村	3
26	県立鎌倉	池原	2	62	県立立川	滝野	3
27	県立和国	小池	3	63	県立立川	佐原	2
28	県立茅ヶ	保尾	3	64	県立立川	北原	3
29	県立塚南	神保	2	65	県立立川	佐原	3
30	県立新永	野水	2	66	県立立川	滝野	3
31	県立永大	野水	3	67	県立立川	佐原	2
32	県立大茅	清水	3	68	県立立川	佐原	2
33	県立立茅	金	2	69	県立立川	佐原	1
34	県立立茅	菊	3	70	県立立川	佐原	3
35	県立立茅	立	1	71	県立立川	佐原	2
36	県立立茅	友	3	72	県立立川	佐原	2

<朗読部門：審査の観点>

- 1) 題材の選択
朗読部分の抽出の仕方かどうか。
- 2) 内容の把握
作品全体及び抽出部分の内容をよく把握した上で朗読しているか。

朗読部門

1. 潮騒 2. 人とつき合う法 3. 嵐狩峠
4. かもめのジョナサン 5. 日本永代蔵

B 会場

No	学校名	氏名	学年	No	学校名	氏名	学年
1	相模女子大学高等部	妃美	2	37	県立金井	宮本一	1
2	横立女大	久美	2	38	県立元石	江里代子	3
3	横立大	希美	1	39	県立神奈川	湯澤仁	2
4	横立大	めぐみ	2	40	県立大	岸藤雅	2
5	横立大	恵子	2	41	県立大	岸藤雅	3
6	横立大	おり	2	42	県立大	岸藤雅	2
7	横立大	京幸	1	43	県立大	岸藤雅	2
8	横立大	美さ	2	44	県立大	岸藤雅	2
9	横立大	おり	2	45	県立大	岸藤雅	1
10	横立大	知美	3	46	県立大	岸藤雅	2
11	横立大	圭子	3	47	県立大	岸藤雅	3
12	横立大	代子	2	48	県立大	岸藤雅	2
13	横立大	香	3	49	県立大	岸藤雅	2
14	横立大	美	2	50	県立大	岸藤雅	1
15	横立大	山美	2	51	県立大	岸藤雅	2
16	横立大	子	3	52	県立大	岸藤雅	2
17	横立大	恵子	3	53	県立大	岸藤雅	3
18	横立大	玲	2	54	県立大	岸藤雅	2
19	横立大	ち	2	55	県立大	岸藤雅	3
20	横立大	子	2	56	県立大	岸藤雅	2
21	横立大	世	1	57	県立大	岸藤雅	2
22	横立大	の	2	58	県立大	岸藤雅	2
23	横立大	子	1	59	県立大	岸藤雅	2
24	横立大	絵	3	60	県立大	岸藤雅	3
25	横立大	子	2	61	県立大	岸藤雅	1
26	横立大	輝	2	62	県立大	岸藤雅	2
27	横立大	史	2	63	県立大	岸藤雅	2
28	横立大	隆	1	64	県立大	岸藤雅	3
29	横立大	子	2	65	県立大	岸藤雅	2
30	横立大	美	2	66	県立大	岸藤雅	3
31	横立大	子	2	67	県立大	岸藤雅	1
32	横立大	宗	1	68	県立大	岸藤雅	3
33	横立大	敬	3	69	県立大	岸藤雅	3
34	横立大	子	1	70	県立大	岸藤雅	2
35	横立大	子	3	71	県立大	岸藤雅	1
36	横立大	子	2	72	県立大	岸藤雅	1

3) 表現の仕方

内容にあった表現方法、間の取り方など、朗読の仕方全般。

4) 基礎技術

発声・音量・イントネーション・アクセントなどかどうか。

5) 全体的な印象

1) ~ 4) 以外の点で感じられたことも含む。

ラジオ番組制作部門

課題「われら高校生」

A 会場

No	学校名	氏名	学年	No	学校名	氏名	学年
1	県立水ヶ丘	川賢二	2	14	県立種森	細田洋香子	2
2	県立水谷西	中川智一	2	15	県立立川工業	山田山子	2
3	県立瀬田	川兼久子	2	16	県立立川	田山牧子	1
4	県立横須賀	中川兼久	2	17	県立立川	田山芳里	1
5	県立横須賀	中川兼久	2	18	県立立川	田山芳里	2
6	県立立川	中川兼久	2	19	県立立川	田山芳里	2
7	県立立川	中川兼久	2	20	県立立川	田山芳里	2
8	県立立川	中川兼久	3	21	県立立川	田山芳里	2
9	県立立川	中川兼久	2	22	県立立川	田山芳里	2
10	県立立川	中川兼久	2	23	県立立川	田山芳里	3
11	県立立川	中川兼久	2	24	県立立川	田山芳里	2
12	県立立川	中川兼久	3	25	県立立川	田山芳里	2
13	県立立川	中川兼久	2				

B 会場

No	学校名	氏名	学年	No	学校名	氏名	学年
1	県立津久井	野田裕美	2	13	県立大和市	山田美子	2
2	県立津久井	野田裕美	2	14	県立大和市	山田美子	3
3	県立津久井	野田裕美	1	15	県立大和市	山田美子	2
4	県立津久井	野田裕美	3	16	県立大和市	山田美子	2
5	県立津久井	野田裕美	2	17	県立大和市	山田美子	3
6	県立津久井	野田裕美	2	18	県立大和市	山田美子	2
7	県立津久井	野田裕美	2	19	県立大和市	山田美子	2
8	県立津久井	野田裕美	2	20	県立大和市	山田美子	3
9	県立津久井	野田裕美	2	21	県立大和市	山田美子	2
10	県立津久井	野田裕美	3	22	県立大和市	山田美子	2
11	県立津久井	野田裕美	2	23	県立大和市	山田美子	2
12	県立津久井	野田裕美	3	24	県立大和市	山田美子	2

< 番組制作部門：審査の観点 >

1) 題材の選択

[課題部門]

「われら高校生」という総合テーマの下で、どのような題材がどのような視点で選択、設定されているか。

[自由部門]

どのようなテーマがどのような視点で選択、設定されているか。

2) 内容・構成

テーマを生かすためにどのような取材や構成が行なわれているか。制作の方法は適切か。

ラジオ番組制作部門

自 山

A 会場

No.	学 校 名	氏 名	学 年	No.	学 校 名	氏 名	学 年
1	基 立 学 校	勝 俊 晴	2	17	基 立 学 校	氏 巨 敬 直	2
2	基 立 学 校	藤 木 村 藤 野	3	18	基 立 学 校	橋 口 園 井	3
3	基 立 学 校	佐 松 木 俊 平	3	19	基 立 学 校	氏 美 穂 都 行	2
4	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	3	20	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	2
5	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	3	21	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	2
6	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	2	22	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	2
7	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	2	23	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	3
8	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	2	24	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	2
9	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	2	25	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	2
10	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	2	26	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	2
11	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	2	27	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	3
12	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	3	28	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	2
13	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	3	29	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	2
14	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	2	30	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	2
15	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	3	31	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	2
16	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	3	32	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	2

B 会場

No.	学 校 名	氏 名	学 年	No.	学 校 名	氏 名	学 年
1	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	3	17	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	2
2	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	2	18	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	2
3	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	2	19	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	2
4	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	2	20	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	2
5	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	2	21	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	3
6	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	3	22	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	3
7	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	2	23	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	2
8	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	2	24	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	2
9	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	2	25	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	3
10	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	2	26	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	2
11	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	3	27	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	1
12	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	3	28	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	3
13	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	2	29	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	3
14	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	2	30	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	3
15	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	3	31	基 立 学 校	氏 文 千 幸 和	3
16	基 立 学 校	藤 野 田 川 橋	2				

3) 制作技術・効果

録音（録画）の技術はどうか。音楽や効果音が適切に使われているか。

4) アナウンス・ナレーション

アナウンス・ナレーションの技術はどうか。

5) 全体的な印象

1)～4)以外の点で感じられたことも含む。

*放送台本も審査対象とする。

*機材の性能による画像ノイズなどは減点しない。

テレビ番組制作部門

課題「われら高校生」

No	学校名	氏名	学年	No	学校名	氏名	学年
1	向上	高重明	3	9	県立桐本	高松志麻	3
2	県立相模大野	三沢正紀	1	10	法政大学第二	白島裕明	3
3	横浜市立大野見工業	本多伸生	2	11	県立有馬	置森勝美	2
4	県立白川山崎工業	竹内淳	3	12	横浜市立南川崎	東上田山明	2
5	県立海大市立	赤方政美	2	13	横浜市立石川	東上田山明	3
6	東海大市立	熱方美井	3	14	横浜市立元座	上田川戸	2
7	川崎立	波木智恵	2	15	県立	木戸	2
8	県立新栄	阿藤のぞみ	3	16	県立本	高松志麻	3

テレビ番組制作部門

自由

No	学校名	氏名	学年	No	学校名	氏名	学年
1	県立川崎工業	藤井晶之	3	13	県立桐本	萩野直樹	2
2	県立川崎台	井川哲也	3	14	県立上桐	木村博孝	3
3	県立麻生間	野中成夫	3	15	川崎市立商業第二	永谷興三	1
4	県立東海大市立	野中斐子	3	16	法政大学第二	川地敏明	3
5	県立立白	平百間英博	3	17	横浜市立須賀	古澤敏明	2
6	県立立白	西村博文	3	18	横浜市立須賀	岩井田本	2
7	県立立白	杉本秀樹	2	19	県立立白	菅石寺滝	1
8	県立立白	本野崇之	2	20	県立立白	菅石寺滝	1
9	県立立白	菅野貴之	2	21	県立立白	菅石寺滝	3
10	県立立白	菅野貴之	2	22	県立立白	菅石寺滝	2
11	県立立白	菅野貴之	2	23	県立立白	菅石寺滝	3
12	県立立白	菅野貴之	3				

研究発表

No	学校名	氏名	学年	No	学校名	氏名	学年
1	向上	渡辺真理子	3	5	横浜市立鶴見工業	本田伸生	2
2	県立座間	山田慎	2	6	横浜市立有馬	小茂戸中	3
3	県立道浜	柴田智洋	1	7	横浜市立有馬女子大学高等部	小茂戸中	2
4	法政大学第二	水野亮	2				

諸 注 意

1. 会場内は土足厳禁です。
上履きを忘れた人は素足。会場校のスリッパ等を使わないこと。
2. ゴミの処理、後始末は、自分で確実に行なってください。
所定のゴミ箱以外には絶対にゴミを捨てないこと。
3. 立ち入り禁止区域に入らないこと。
その他あらゆる点で、会場校に迷惑をかけないように、考えて行動すること。
4. 審査中は静かにしてください。
会場内はもちろん廊下でも静かに。会場の出入りは、審査の境目にする事。
5. アナウンス、朗読の出場者は早めに各会場で待機していること。

諸 連 絡

1. 予選落選作品は、本選日（6月24日）の12:00～13:00に大師高校で返却します。審査用紙と「落選作品の順位の日安」を同時にお渡しします。当日、受け取りに来なかった学校の分は廃棄されます。
2. アナウンス1～3位、朗読1～3位、ラジオ課題1位、ラジオ自由1位は、下記の予定でNHK横浜放送局より放送されます。
 - ・NHK-FM 横浜 81.9MHz 小田原 83.5MHz
 - ・放送日 6月27日（水） 時間、番組名は未定
 - ・該当者（校）は6月26日（火）15:30に、NHK横浜放送局に集合してください。アナウンス、朗読は放送用の録音をします。ラジオはダビングをしたテープを持参してください。